

公益財団法人静岡県文化財団

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 TEL.054-203-5710 FAX.054-203-5716 URL.https://www.granship.or.jp

ANNUAL REPORT 2019

(公財)静岡県文化財団 2019年度年次報告書

●令和2年度発行 ●デザイン監修/甲賀 雅章 ●デザイン/北村 善行



## はじめに

公益財団法人静岡県文化財団は、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与する目的として、昭和59年5月22日に静岡県及び県内の市町村、県民の皆様から出捐により設立されました。その後、学術、文化及び芸術の振興と国内外の交流を図る静岡県コンベンションアーツセンター グランシップの管理運営を受託し、現在に至っています。

令和元年度(2019年度)を振り返りますと、第4期(2017～2021年度)グランシップ指定管理業務の3年目として「ふじのくに文化振興基本計画」を踏まえ、戦略目標「上質で多彩をより身近に」「県民との繋がりと広域的な協働・交流」「安全・安心・快適な施設運営と経営の安定化」「働きやすい職場づくり」の4つを基本方針とし、事業を展開しました。

特にグランシップ企画事業では、「音楽文化等の普及・振興」「伝統芸能の継承」「文芸・美術等の振興」「子ども・子育て世代への支援」の4本の柱のもと、開館20周年事業やグランシップオリジナル文化プログラムを中心に展開し、事業に取り組みました。

また、貸館事業は「世界お茶まつり2019」など例年以上に多くの全館借上げ事業が開催されました。

### 1 上質で多彩をより身近に

- ・ 県と一体となって「文化芸術の振興 ー本県の文化の創造、発展、普及ー」を推進するべく、「エイフマン・バレエ」「バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル:『メサイア』」「グランシップ静岡能」等、音楽や伝統芸能を中心に「上質で多彩」な公演や講座、ワークショップを当館をはじめ県内各地で開催しました。
- ・ 「ふじのくに文化情報センター」では、「ふじのくに文化情報フォーラム」や「個別テーマ実践プログラム」を中心に、県民の文化芸術活動への支援を積極的に進めました。

### 2 県民とのつながりと広域的な協働・交流

- ・ これまでに続き、静岡県立美術館、静岡県舞台芸術センター(SPAC)を縦糸、大学、高校及び中学等の学校、市町の公立文化施設、文化芸術団体、アーティスト、マスコミ、企業を横糸として、さらなる連携の強化を図りました。また、「めぐりアート」と連携した「めぐりアート+(プラス)」にも継続して取り組み、館内で気鋭の作家による作品を展示しました。
- ・ 県を挙げて推進する文化プログラムでは、県域プログラムとして認証された「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」をはじめ、当館オリジナル文化プログラムとして「トレインフェスタ」「世界のこど

も劇場」「誰もがWonderfulアート」等を開催し、全県的なオンラインピックアップメントの醸成に努めました。

- ・ 新たな事業として、県内プロオーケストラと協働した「子どもが文化と出会う機会創出事業」を実施し、県内各地の学校等でコンサートを開催しました。
- ・ 県民参加型の催事である「音楽の広場」は12回目を迎え、2回目となる「春の音楽祭」は県内中学生、高校生、大学生という若い世代を実施主体として開催するなど県民参加の輪を拡大しました。
- ・ 貸館事業では、会議室・練習室等、中小規模の施設の利用を促進させるため、インターネット利用者登録手続きの簡略化を図るなどの環境整備を行いました。

### 3 安全・安心・快適な施設運営と経営の安定化

- ・ ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮するとともに、適時適切な施設の点検を行い、照明器具等の設備交換など遅滞なく維持修繕を実施しました。また毎月、全職員挙げての防災訓練、研修を行い、安全・安心な施設・設備の管理運営に取り組みました。
- ・ 令和元年10月の消費税等の税率変更に伴いグランシップ利用料金を改定しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として財団内に対策本部を立ち上げ、当館出入口への消毒液の設置や会議室、トイレ等の清掃強化、入館者・スタッフのマスク着用促進など安全・安心に施設を利用できるように対策を講じました。

### 4 働きやすい職場づくり

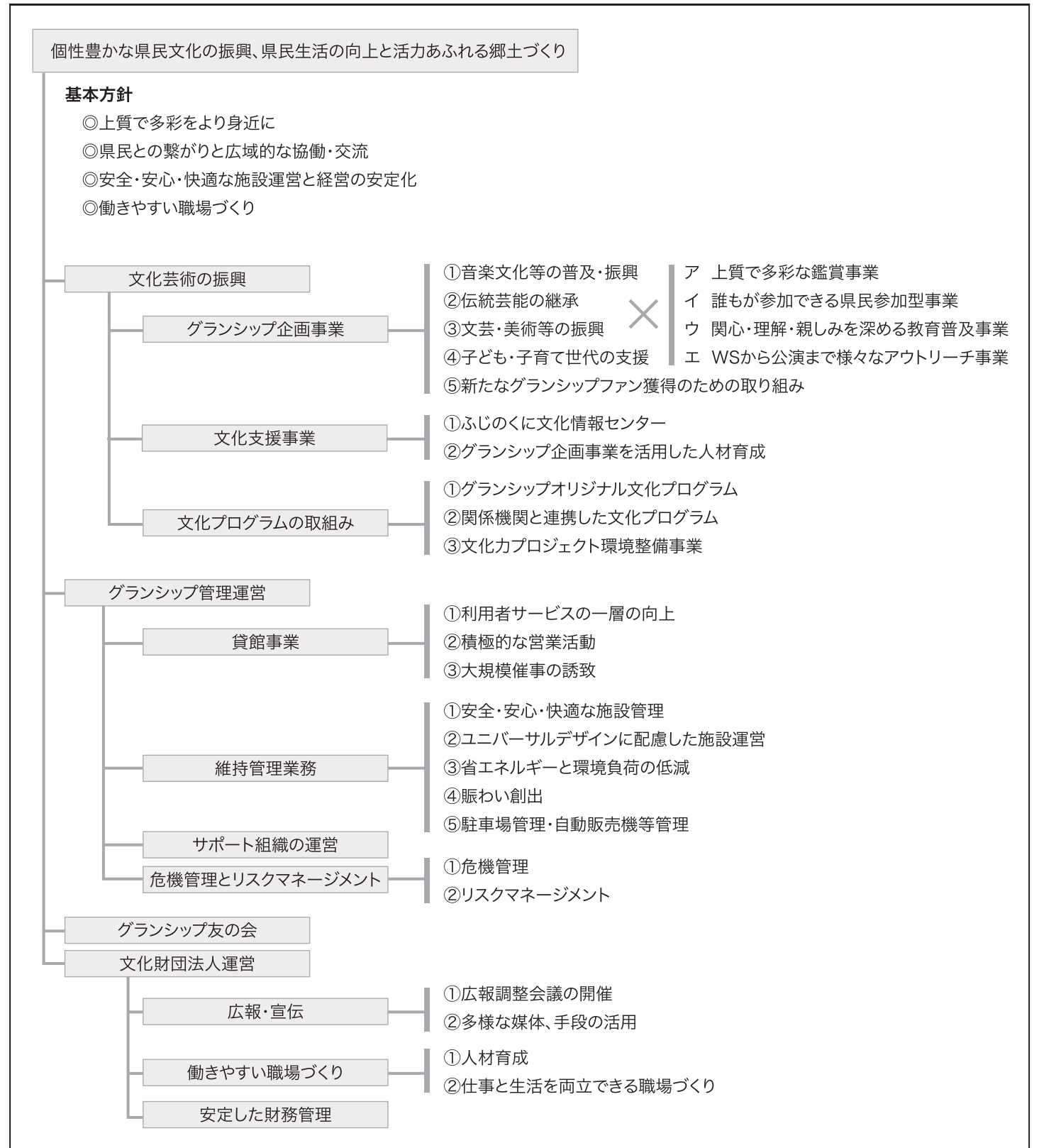
- ・ 新たに育児や介護を理由に退職した職員が復職できる制度を整備するとともに、ストレスチェック制度を導入して職員の働き方に関する意識改革に取り組むなど、ワーク・ライフ・バランスを推進しました。

令和2年2月下旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためグランシップ企画事業は中止・延期を余儀なくされ、貸館事業も予約のキャンセルが相次ぎました。文化芸術を止めないことについて現在も模索しているところで。

最後に、令和元年度は、グランシップ第4期指定管理者3年目として、着実に成果を上げることができたと考えています。1年間の歩みを御高覧いただければ幸いです。

公益財団法人静岡県文化財団 理事長 鈴木 壽美子

## 令和元年度(公財)静岡県文化財団事業体系図





開館20周年を迎え、「グランシップ20周年記念」事業を実施した。この機会に新しい切り口ではじめる事業や、これまでの取り組みをじっくりと振り返る内容を盛り込むなど、20年という歳月、継続してきた重みを改めて感じながらも、新たな歴史の1ページをスタートした。



究極の身体表現を目の当たりにする  
【グランシップ20周年記念】  
エイフマン・バレエ  
「ロダン～魂を捧げた幻想」  
7月15日(月・祝) 中ホール・大地 711人

ロシアバレエ界の生きる伝説と言われるボリス・エイフマン率いるエイフマン・バレエの「ロダン」を、静岡県立美術館にロダン館がある静岡の地で上演し、総合芸術としてのバレエに触れてもらうべく開催。これを機に県外からロダン館を訪れた観客も多い。「考える人」や「地獄の門」で知られる彫刻家ロダンの生涯が、ダンサーたちの極限まで鍛え上げられた神々しいほどの肉体で表現され、見る者全てを釘付けにした。

公演を見た小学生の男女が、休憩時にバレエのステップを真似てロビーに躍り出てきたことが印象的で、「本物」が子どもたちの心にまっすぐ届いたのを実感した。

継続して次代につながる伝統芸能「能楽」

【グランシップ20周年記念】  
グランシップ静岡能 能楽入門公演  
9月7日(土) 中ホール・大地 670人/7月～9月 能楽教室 35人(延べ)

開館当初から継続して、様々なアプローチで公演やアウトリーチを実施している「能楽」。東京オリンピック・パラリンピックに向けて「日本を知ろう!」をテーマに日本の伝統芸能の魅力を改めて紹介するシリーズの2年目は「能楽」にスポットを当てて展開。はじめて能楽に触れる方や、学生でもわかりやすい解説が好評の「能楽入門公演」では、特別公演として、これまでグランシップで実施した様々な能楽の取り組みを紹介する展示を行った。また、過去の能楽教室に参加した小学生から大学生が改めて稽古をし、成果発表として本番の舞台で舞を披露した。新時代「令和」を寿ぐ祝言曲や、能楽界の次代を担う若い世代も出演し、能楽の新たな魅力を届けた。



これまでを振り返りながらも、また新たな歴史を積み重ねる

【グランシップ20周年記念】  
グランシップ2019年しずおか連詩の会  
12月15日(日) 11階 会議ホール・風 200人

連詩とは、連歌・連句の美学をもとに、新たに詩の可能性を探ろうと三島市出身の詩人・大岡信を中心にはじまった創作現代詩である。近年、連詩は、海外でも創作されるなど、静岡県が世界に誇る文芸文化に成長した。20周年を迎えた「しずおか連詩の会」では、創作された作品の朗読・解説のほか、これまでの連詩の会を振り返る特別展示やトーク、詩人・谷川俊太郎氏による「しずおか連詩の会」に寄せた新作の詩やビデオメッセージを披露。5人のことばの表現者によって紡がれた「しが息をしはじめる」の巻と題した40編の詩は、未来への息吹も感じさせ、20年目の新たな出航を彩った。



東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの静岡県における拠点として、より一層の文化芸術の振興や、地域に伝わる民俗芸能の継承など力を入れた事業を展開。

地域とともに、大人から子どもたちへ

【静岡県文化プログラム】ふじのくに伝統芸能フェスティバル～地域とともに大人から子どもたちへ～

9月22日(日) 中ホール・大地 812人  
関連企画:伝統芸能子どもサミット 8月23日(金) 11階 会議ホール・風 31人(子どものみ)

静岡県文化プログラムの一事業として、芸能団体の実演を交えながら日本における芸能の伝播と今後の伝承についての課題と展望を探るべく3回シリーズで展開する「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」。2回目は「地域とともに、大人から子どもたちへ」をサブタイトルに、県内で様々な工夫と努力によって芸能を次世代に受け継ぎながら地域振興等に取り組む芸能団体が集結し、その実演と事例を紹介。観客の関心も高く、楽しみながらも今後の伝統芸能のあり方を考えるきっかけとなった。

また、8月には関連企画としてはじめて「伝統芸能子どもサミット」を開催。各地域で脈々と受け継がれている伝統芸能や民俗芸能を絶やさぬよう、県内各地で芸能に取り組む小学生から高校生が話し合いで決めたスローガンを宣言しサミットは閉幕した。



静岡を盛り上げる鉄道の一大イベント

【グランシップ20周年記念】  
グランシップトレインフェスタ2019  
5月11日(土)・12日(日) 全館 28,154人

日本最大級の鉄道イベントに成長した本イベントは、子どもから大人まで多くの方に鉄道の魅力を発信している。鉄道模型コーナーやミニ列車乗車車など、オリジナリティ溢れるコンテンツが満載。

「第58回静岡ホビーショー」との同日開催により、全国のホビーファンも多く来場した。また、JRグループと静岡県が共同で実施する「静岡デスティネーションキャンペーン」の一環として、「ホビーのまち静岡」の魅力を感じることができるツアーや、臨時列車「ホビーのまち静岡列車」を運行。静岡を盛り上げた。



年代や国境を越えて誰もが音楽を楽しめるステージ

【グランシップ20周年記念】  
グランシップ春の音楽祭2020～がんばるキミに届け～  
令和2年2月23日(日・祝) 大ホール・海 2,371人

昨年度に続き2回目となる「グランシップ春の音楽祭」。ステージ上には、オーケストラとバンド、合唱のメンバーが並び、ダンスのアクティングエリアを客席がコの字型に囲む。前回の躍動感そのままに、さらに誰もが音楽を楽しめるステージとして、2回目は「がんばるキミに届け～世界とツナガル。わたし、あなたへのメッセージ～」をテーマに、脳性麻痺のバイオリニスト式町水晶氏をゲストに迎えた。合唱とダンスは、県内で活躍する高校生を中心に日本で学ぶ留学生が加わり、地元のオーケストラやプロのアーティストがサウンドを支えた。年代や国境を越えて、その場でしか味わえない一日限りの響きが会場を一つにした。





グランシップの特性を生かし、年間を通じて様々な国内外の「上質で多彩」な公演を実施。子ども・学生料金や中高生鑑賞プラン、交通費支援制度により、音楽や伝統芸能とジャンルを問わず、多くの子どもたちがはじめて劇場を訪れ鑑賞する機会となった。



**日本の最高峰の演奏がここに**  
**NHK交響楽団名曲コンサート**  
 6月27日(木) 中ホール・大地 843人

日本を代表するオーケストラの演奏でベートーヴェンとモーツァルトの名曲を聴く。指揮は、国内外での活躍やNHK大河ドラマの指揮でも知られる下野竜也マエストロ。また、モーツァルト国際コンクールのピアノ部門で日本人として初めて優勝したピアニスト・菊池洋子氏は、モーツァルトの名曲、ピアノ協奏曲第21番ハ長調K.467を披露した。来場者からは「始まった瞬間から生き活きとして引き込まれる演奏だった」、「ベートーヴェンの7番の魅力にあらためて気づくことができた」、「ピアニストの繊細な表現、オーケストラとの一体感も素晴らしかった」と感想が寄せられ、日本最高峰の演奏が観客の心に届いていた。

**必然性を持って構成された全曲を演奏**

**バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル：「メサイア」**  
 12月20日(金) 中ホール・大地 616人

**バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル：「メサイア」事前講座**  
 11月2日(土) リハーサル室 86人

コーラスと古楽器の美しいハーモニーで世界中にファンを持つバッハ・コレギウム・ジャパンがクリスマスシーズンの静岡に「メサイア」を届けた。ヘンデル研究の第一人者である三澤寿喜氏を講師に、鈴木優人氏のチェンバロ演奏やメンバーの歌唱など実演を交えた事前レクチャーは、満席となる期待の高さ。公演では、鈴木雅明氏の指揮のもと、美しい英語詞のコーラス、それを支えるオーケストラの演奏に、ソリストの圧倒的な表現力を持った声加わり、イエスの生涯を綴った物語はドラマチックに展開した。古楽器を用いた演奏は、バッハやヘンデルが活躍した当時の音を余すところなく再現した。オペラのような華やかな衣装や舞台装置がないオラトリオ形式では、演奏と歌声がより一層際立ち、後半のクライマックスでは「ハレルヤ・コーラス」が会場を歓喜の渦に包み込んだ。



**静岡ゆかりの演目で伝統芸能をより身近に**  
**人形浄瑠璃 文楽**  
 10月6日(日) 中ホール・大地 (2公演)1,102人  
**【グランシップ出前公演】**  
**「人形浄瑠璃 文楽」事前レクチャー**  
**山川静夫のここがみどころ・ききどころ**  
 9月4日(水) 大井川文化会館ミュージコ 80人

ユネスコ無形文化遺産で、日本が世界に誇る伝統芸能「人形浄瑠璃 文楽」。太夫、三味線、人形遣いの三業が揃ってはじめて成立する総合舞台芸術である。物語のクライマックスが大井川となる悲恋の名作「生写朝顔話」、時代物の名作「ひらかな盛衰記」と人気演目を上演。字幕付きで、出演者によるあらすじ解説もあり、はじめての方も戸惑いなく文楽を見ることができる。さらには、事前レクチャーとして「山川静夫のここがみどころ・ききどころ」を、大井川で開催し、物語の詳しい説明や、人形遣いによる実演を交えた解説で、一見、難しく思われがちな伝統芸能への敷居を下げ、新たに多くの人に触れられる工夫を凝らしている。



日常では、なかなか触れることのできない文化芸術に触れる機会を設け、さらに、興味や関心を持った場合には、その理解や親しみを深めることを助けるため様々な工夫を凝らしたプログラムを展開。ジャンルも多岐に渡り、学生をはじめとした多くの方に向け、その間口を広げている。



**はじめての伝統芸能に最適**  
**国立劇場 歌舞伎鑑賞教室**

6月26日(水) 中ホール・大地 (2公演)1,424人

歌舞伎俳優が実演を交えて歌舞伎の楽しみ方を解説し、後半に人気の演目を上演して、歌舞伎鑑賞がはじめての方や学生のみなさんへ歌舞伎の魅力をお届けする本公演。江戸時代中期に活躍した異色の科学者・平賀源内が「福内鬼外」のペンネームで書いた「神霊矢口渡」を上演。中村鴈治郎が渡し守頓兵衛を、中村吉太郎が娘お舟を、それぞれ初役で勤める父子共演の舞台。目が離せない劇的な展開で、他の演目や人形浄瑠璃も見てみたくなったという声が多く、学生や普段触れる機会の少ない方が、伝統芸能へ興味を持つきっかけとなった。

**子どもたちにこそ本物の芸術を**

**本名徹次指揮 静岡交響楽団**  
**グランシップ中学生のためのオーケストラ**  
 令和2年1月29日(水)～30日(木) 中ホール・大地 (4公演)3,119人

「中学生に本格的なオーケストラの音楽に触れてほしい」と願いを込めて、指揮者による解説付きの演奏と、劇場マナーまで学べる公演。本名徹次マエストロは、前身の「中学生のための音楽会」が「鑑賞教室」から「音楽会」に呼称を変更した平成21年に「有名な曲をかいつまんで聴かせる」というコンセプトを打ち立てた。それ以来、指揮者やオーケストラは毎年入れ替わっても、その考え方は現在も受け継がれている。県内の多くの中学生の、はじめての体験に“本物”を届けた。



**演奏を間近で、アーティストから学ぶ**  
**グランシップ アウトリーチ登録アーティスト事業**  
 4月20日(土)～令和2年2月24日(月・休) 3階 共通ロビー 他  
 (15回22公演) 3,117人  
 ※新型コロナウイルスの影響により2回3公演中止  
**【グランシップ子どもアート体験!】**  
**登録アーティストミニコンサート**  
 6月～令和2年1月 県内小学校、特別支援学校 634人

グランシップアウトリーチ登録アーティストは、小学校や特別支援学校でのアウトリーチや、「親子で楽しむロビーコンサート」などの公演で子どもたちに音楽を届けている。公演、学校のニーズに合わせたオリジナルプログラムの作成に努め、参加者全員が間近に生演奏を体感できるよう組み立てた。クイズ形式の投げかけや子どもたちからの質問など、双方向のコミュニケーションも欠かせない要素である。子どもたちにとってアーティストの生演奏を聴いて感じたことは、特別な経験として記憶に残っているようだ。





平成18年度からスタートした「アウトリーチ事業」(平成25年度から「グランシップ子どもアート体験! 学校プログラム」)は、国内外・県内の芸術家によるコンサートやワークショップをさらに多様な形態、ジャンルで県内の文化施設や学校などで積極的に展開し、20事業を実施。「グランシップ出前公演」は、平成26年度より、普段グランシップに足を運ぶ機会の少ない県東部や西部の方々にグランシップの劇場体験をお届けするべく、県内各地の文化施設と共催で開催している。



**家族にも教えてあげたくなるほど夢中に**  
**【グランシップ子どもアート体験!】**  
**六代目宝井馬琴監修 講談教室**  
 6月6日(木) 焼津市立焼津西小学校 6月7日(金) 富士宮市立大宮小学校  
 7月8日(月) 川根本町立本川根小学校 計347人

平成15年から継続している講談教室。講談は、張扇で釈台を叩き、テンポよく話を進める伝統的な話芸。最初はその音に驚いていた子どもたちも、実演が始まると小気味よく進む物語に、夢中になった様子。  
 みんなで声を出して体験する場面では、張扇を片手に一生懸命取り組み、休み時間もステージ上は大賑わい。「家で、家族にも教えてあげたい」などの感想には、臆せずに触れてみる事ができる環境づくりの重要性を大いに感じた。



**難しいと構えることなくチャレンジ**  
**【グランシップ子どもアート体験!】**  
**玉川奈々福の浪曲教室**  
 11月7日(木) 静岡市立葵小学校 11月28日(木) 焼津市立焼津南小学校  
 計163人

浪曲は、曲師の三味線とともに「節」と呼ばれる歌と、「啖呵」と呼ばれるセリフによって物語を聞かせる語り芸。子どもたちだけでなく、先生も初めての体験となった。浪曲の歴史などを知識として学んだ上で、講師の実演を見ることにより、その力強く生き生きとした芸に引き込まれた様子だった。その後実際に、子どもたちも声を出して、浪曲に挑戦。普段できない経験に、子どもたちからは、「また見たい」、「楽しかった」という声があがり、本物に触れること、自分もやってみることで、伝統芸能は難しいと構えることなく、興味を持ってたようだ。



**子どもたちの豊かな感性を刺激する**  
**【出前公演】世界のこども劇場2019**  
**「アナのはじめての冒険」(掛川市・裾野市)、「キャンパス」(菊川市)**  
 8月7日(水) 掛川市美感ホール 8月8日(木) 菊川文化会館アエル 8月10日(土) 裾野市民文化センター 計584人

グランシップで毎年開催している「グランシップ世界のこども劇場」を出前公演でお届け。身近な施設で、0歳から大人まで、グローバルで上質な舞台を楽しめる機会として、各地域でも定着しつつあり、毎年の開催を心待ちにしている親子ファンも多い。言葉はなくても、わからなくとも、子どもたちの豊かな感性を刺激する公演。



グランシップが取り組んでいる伝統芸能事業を、単なる興行的な公演で終わらせるのではなく、地域と連携したプログラムとして普及していくことを目指した事業。数ある日本の伝統芸能の中から「能楽」を中心に、日本の芸術の魅力とともに、芸術家の物事に対する姿勢、考え方、経験を伝えることに重点をおいている。各地域の文化施設や教育機関と協力し、それぞれ現場の実情にあわせて個別に内容や出演者を設定してオリジナル性の高いプログラムを展開している。

**教科書の内容を本物の狂言方から学ぶ**  
**グランシップ伝統芸能普及プログラム**  
**～触れてみよう能楽師～狂言ワークショップ**  
 9月30日(月) 浜松市立北浜南小学校 93人

6年生の国語の教科書には狂言が掲載されていることから、前半は狂言方自ら教壇に立ち、その教科書を用いて授業を行った。後半は、体育館で摺り足や狂言独特の名のりを体験。最後は、間近で狂言「棒しばり」の実演を鑑賞した。教科書や映像だけではなく、自分で体験し本物を見ることは子どもたちの記憶により強く刻まれることだろう。講師は、子どもたちに向け「大人になったら、ぜひ日本の文化を海外の人にも伝えてほしい」と締めくくった。

**大学生が年間通じて伝統芸能に直接触れる**  
**グランシップ伝統芸能普及プログラム・静岡県内大学連携事業**  
**「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」イベント 歌舞伎入門講座**  
 5月20日(月) 全4回とも2階 映像ホール 37人  
**「人形浄瑠璃 文楽」入門講座 5月29日(水) 31人**  
**宝井琴柑の講談教室 6月6日(木) 20人**  
**玉川奈々福の浪曲教室 11月28日(木) 18人**

大学生や大学の教員に向けて、静岡県内の各大学と連携し、伝統芸能について少人数で直接学べる貴重な機会を設けている。講師は、実際にその伝統芸能に携わる演者や、制作担当者である。これまで継続して実施している「歌舞伎」「文楽」「講談」に、令和元年は、はじめて「浪曲」も加わった。座学の後の実演や体験、質疑応答はもちろん、講師と直接話すこともでき、参加者の満足度は非常に高い。



**はじめての能楽を小学校で体験**  
**グランシップ伝統芸能普及プログラム・地域連携事業**  
**～触れてみよう能楽師～**  
 令和2年2月7日(金) 御殿場市立御殿場南小学校 170人

小学生が能楽に触れる機会は少ないため、はじめてに能楽とはどのような芸で、能楽師にはそれぞれどのような役割があるのかを講師から教わった。本物の能面や楽器を用いた説明の後には、謡のお稽古にも挑戦した。後半は、体育館に移動して、能楽独特の歩き方、摺り足を体験。実際の装束をつけて演じられた能「敦盛」の一部を鑑賞した後、子どもたちからは、「衣裳の重さや、着る時間はどのくらい?」「能は最大何人で演じるのか?」など、積極的に質問が飛び交い、能楽との距離が縮まっていくのを感じた。





次代を担う子どもたちが、様々な経験を通じて豊かな感性や創造力を育むために、普段の生活では出会わないような、世界の文化、日本の伝統芸能などに触れられる機会を広く提供。鑑賞だけでなく、さわる、つくるなど、実際に体験してみることを大切にしている。また、子育てをする親も、安心して子どもたちと参加できる環境を整えている。



**“みらい”の世界を想像してみよう**

**グランシップこどものくに～ハローみらいくん～**

5月3日(金・祝)～6日(月・休) 6階展示ギャラリー、交流ホール、3階ロビー 他 13,328人

ゴールデンウィークに、小さな子どもたちが家族と無料で安全に楽しめる体験型イベント。「触って、作って、遊べる」ことを基本とし、創造力を育み、幼児期の子どもたちの発想力や表現力を刺激しあう場を、学生・サポーター・県内の企業とともに支えている。「からだあそび」や「合唱ワークショップ」など、コンテンツも様々で、1日たっぷり遊ぶことができる。「令和」という新たな時代の幕開けを迎えた第14回目の「こどものくに」では、ロボットとともに暮らす“みらい”の世界を造形を通して創造。子どもたちの明るい笑顔と元気な声でいっぱい4日間だった。

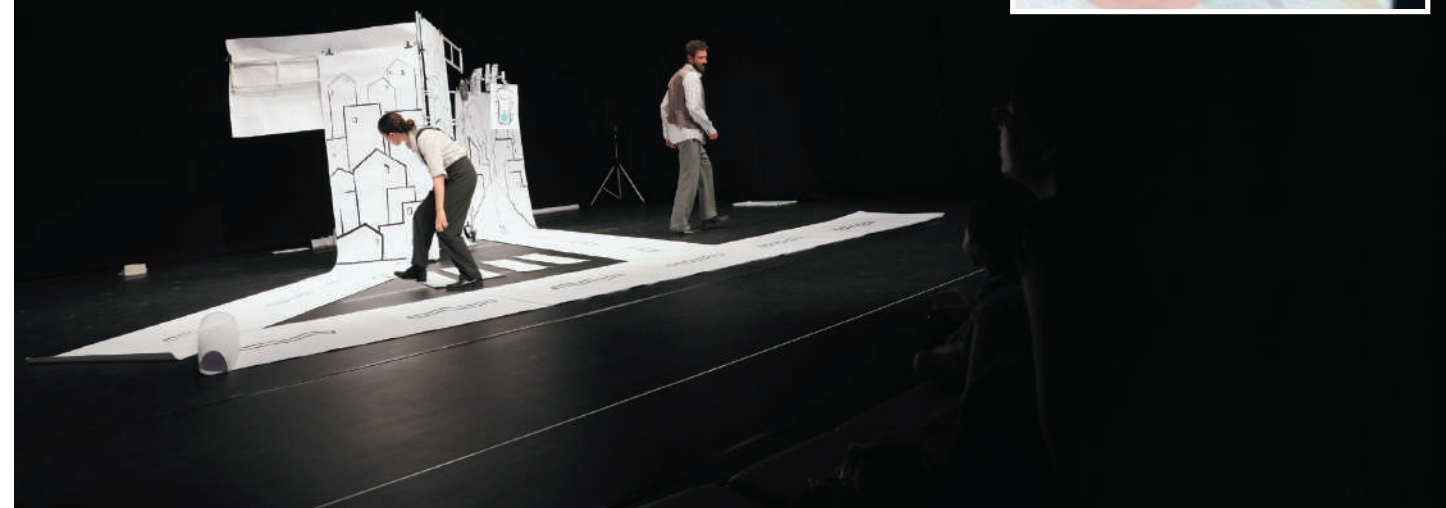
**小さな胸にぎざんだ感動は、生きる力になる**

**グランシップ世界のこども劇場2019**

**「はる・なつ・あき・ふゆ」「カラフル・パズル」「キャンパス」「あべこべ」  
にっぽんこども劇場～狂言「棒しばり」～**

8月1日(木)～3日(土) 中ホール・大地 6階交流ホール 10階1001会議室 1,341人

“自分の目で見、聴く、体験する”という経験が子どもたちにとってかけがえのない時間になることを願い、平成22年から始まった「グランシップ世界のこども劇場」は10年目を迎えた。国や言葉の壁を越えて、0歳から大人まで楽しめる多彩なステージを届けている。今回も、明るい音楽や歌と季節を巡る旅、リズムカルな動きと色のカラフルさ、次々と書きさされていく大きな絵、小道具を様々なものに見立てながらドラマチックに進むストーリーに、かじりつく様に真剣な眼差しで向き合う子どもたち。にっぽんこども劇場では、狂言の面白さを素直に感じとり、会場には子どもたちの笑い声が広がっていた。



**世代を超えて、子どもから大人まで親しめる**

**グランシップ寄席「寄席わんだーらんど」**

11月23日(土・祝) 6階交流ホール 240人

日本の伝統的な寄席芸を親子で気軽に楽しめるよう、グランシップオープンシアターデー同日に開催。客席の子どものリアクションを嘶に取り入れた落語に大笑いしたかと思えば、今にも落ちそうに見える曲独楽をはらはらしながら見つめ、子どもたちは寄席芸の世界に没頭して楽しんだ様子。プロの演者による実演の後は、客席の子どもたちも実際に体験してみよう!と、お辞儀や扇子を使った落語の所作を学んだり、大きな独楽を手で受けたりと、はじめての体験づくし。伝統芸能に間近で触れ、さらには自分も挑戦できることが何より貴重な機会となった。



プロ・アマを問わず、障害の有無に関わらず、どんな世代でも文化に関ることができる環境づくりを進めている。文化活動に取り組む県民が出演する参加型の公演事業をはじめ、音楽・伝統芸能・アートなど、多様な角度からグランシップの事業に参加できる機会を設けている。



**音楽で、大ホール・海の大空間を一体に**

**グランシップ音楽の広場2019**

8月4日(日) 大ホール・海 6,929人

クラシック音楽の間口を広げ、誰でも気軽に音楽を楽しめる場としてはじまり、グランシップの夏の看板企画のひとつとして第12回目を迎えた。プロ・アマを問わず県内を中心に集まった300人のオーケストラ、300人の合唱団、そして会場の観客と創り上げる真夏の音楽祭は、新元号が令和となり初の開催となる今回も完売御礼。県民からリクエスト曲を募集するなど、さらに参加する要素を盛り込んだ。ラストは、観客とともに「不尽の山を望る歌」を大合唱。万葉集から富士山の美しさを讃える歌を歌詞にしたこの曲で、華やかにフィナーレを迎えた。

**互いに理解し合うきっかけの場となるべく**

**グランシップ 誰もがWonderfulアート**

9月14日(土)～29日(日) 6階展示ギャラリー 2,938人

障害の有無を超え、誰もが持つ豊かな感性や表現の素晴らしさを感じることができる場になることを願い開催している「グランシップ 誰もがWonderfulアート」。障害のある人が綴った詩を受け、著名人やアーティストがアート作品を作った「NHKハート展」、県内特別支援学校の生徒による作品展「ウィズ・ハート展」、そして「安間佐恵 貼り絵展」の同時開催のほか、期間中には、子どもや障害がある人も家族と一緒に参加できるバリアフリーコンサートなどを行った。展示を見て涙を流す人、立ち止まって何度も読み返す人、各々が各々の感覚で作品と向き合う姿が見られた。



**静岡県や写真芸術の魅力を再発見**

**グランシップ 静岡の魅力**

**第10回フォトコンテスト入賞作品展**

令和2年1月18日(土)～2月2日(日) 6階展示ギャラリー 1,602人

静岡の魅力の世界に発信すること、静岡県の写真文化の発展を目指し2年に一度開催している写真コンテストの作品展。

10回目となる今回は日本全国から906点の応募作品が寄せられ、審査会を経て入賞作品が決定。栄えある144点の入賞作品が一堂に展示された。作品展を通じて静岡県や写真芸術の魅力を再発見したという声が多く聞かれた。





県内の文化芸術活動を支援するふじのくに文化情報センターが創る交流と対話の場。静岡県内で幅広く文化芸術活動をしている人たちが、エリアを越え、ジャンルをまたぎ、混ざり合うことを目的に定期的に開催している。毎回、様々な切り口で行われるプログラムから学ぶことが多く、静岡県で文化に関わりたいという思いを持った参加者同士をつなげる役割も果たし、そこから新たな活動も生まれている。



『あなたの「好き」で文化が変わる!?』  
ふじのくに文化情報フォーラム2020 春Part 7  
令和2年2月11日(火・祝)11階 会議ホール・風

前半は、「自分スケッチと水やりダイアログ」と題し、自分自身に向き合い、自分の「好き」を見つけるワークに取り組んだ。後半は、県内を中心に活躍する10組のリーダーが音楽、演劇、歴史など、趣向をこらしたワークショップを用意。体験した参加者は、自身の「好き」を掛け合わせて、そのワークショップを進化させるべく、熱い対話を重ねた。  
異なる領域、地域の人たちが一堂に会し、体験を通して参加者のアイデアが交わることで、新たな発想が次々と生まれていた。また、「好き」の持つ力にはものごとを変える力があることを実感した。



ふじのくに文化情報フォーラム2019 個別テーマ実践プログラム

平成31年2月に開催した「グランシップふじのくに文化情報フォーラム2019春」に参加した3つのプロジェクトにスポットをあて、「アイデアを実践に結び付ける手法を学び、地域の課題を解決する」ワークショップを開催。KJ法を用いた地域支援ワークショップを実践する情報工房代表の山浦晴男氏を講師に迎え、企画の実現を支援した。

「南伊豆町子浦の路地歩きで文化を紡ぐ」(南伊豆町) / NPO法人伊豆学研究会

南伊豆町子浦の路地及び空き家にて、交流人口を増やし賑わいを取り戻す活動を実施。



「誰もがダンスに参加し、人生を豊かで素敵に過ごすために必要なこと」(静岡市) / Dance Celebration

子どもからシニアまで様々な立場の方々を対象としたワークショップやダンス公演を企画制作し、誰もが踊れるダンスを通じて社会とダンスをつなげる活動を実施。



「夜景電車とまち歩きから発信する地域の魅力」(富士市) / フジパク地域応援ボランティア

富士山地域周辺の地域活性を目的に、岳南鉄道で夜景電車など様々な地域体験プログラムを実施。



5月 【1】課題や現状を共有する「問題意識地図」を作成

6月 【2】写真取材の分析から地域に実態を把握する「資源写真地図」を作成

8月、9月 【3】イラストアイデアを持ち寄り「解決策地図」を描き、それを基に実行計画を作成

《各プロジェクト実施》

令和2年3月 【4】実践した内容・記録写真をもとに「検証写真地図」を作成、今後の活動を再計画

各プロジェクト、現状の把握や、課題の棚卸しのため、写真やキーワードを有効に用いて、関係性の整理と分析をし、まとめるという作業に丁寧に取り組んだ。すると頭の中で漠然としていたことが、くっきりと明確になって浮かび上がる。参加者からは、ワークショップを通して自分たちの課題が何なのか、きちんと言語化され、優先順位が付いた、という声もあった。ふじのくに文化情報センターの約10か月間の伴走は、各プロジェクトを行動に移す一つの後押しになったよう。引き続き、実践につながるステップアップの場を提供していく。



「学術・文化及び芸術の振興並びに国内外との交流を図る」というグランシップの設置目的に沿って、複合施設の特徴を生かした多くの学術大会や文化催事、展覧会等の利用があった。

①学術大会・大規模大会の開催

第59回静岡県病院学会や第22回全国農業担い手サミットinしずおかをはじめとして、様々な国内大会・地方大会が開催され、県内、県外から多くの来場者が集まった。

第22回全国農業担い手サミットinしずおか  
12月5日(木)

「深めよう!農のキズナ 高め合おうふじのくにから~日本の未来のために~」をテーマに開催。全国の意欲ある農業の担い手と寛仁親王妃信子殿下を迎え、相互研鑽・交流を通じて農業経営の現状や課題について討議。経営改善と地域農業・農村の発展を推進。



第59回静岡県病院学会  
令和2年2月15日(土)

外国人定住者・旅行者増加による外国人医療受診が増えていることから「多文化共生時代の医療を考える」をテーマに開催。国立国際医療研究センター国際診療部 特任研究員の堀成美氏の基調講演のほか、外国人医療について開業医、医療通訳者、外国人患者受入れ拠点病院それぞれの立場から発表。



②県内の文化活動支援としての貸館事業

静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部主催 第4回軽音楽新人大会などを開催。その他、第28回愛護ギャラリー展など、広く県民に芸術作品の発表や鑑賞を促す機会を提供する事業に寄り添い、県民自ら行う文化活動を支えるべく、様々な文化催事を実施した。

静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部主催  
第4回軽音楽新人大会  
12月23日(月)

年2回の公式大会を開催。翌年度に開催される全国規模の大会への出場推薦権を目指し、コピー曲・オリジナル曲の2部門で独創性溢れるレベルの高い演奏を披露。



第28回愛護ギャラリー展  
12月12日(木)~16日(月)

知的障害児者施設等における日頃の文化・芸術活動の成果を公表し、障害児者や施設に対する県民の理解と支援を促進。知的障害児者の絵画等を展示し優秀作品の表彰を実施。



③催事開催支援サービスの提供

平成27年度より開始した催事開催支援サービスは、弁当手配やパーティー開催、看板作成、会場設営など、催事を開催する上で必要な各種手配を支援するサービス。4年目となり、メニューの拡充など、利用者のニーズに合わせた展開を行った。

2nd World Conference on Solid Electrolytes for  
Advanced Applications  
9月23日(月・祝)~27日(金)

海外からも含め、157人(11カ国)が参加。リチウムイオン伝導性無機固体電解質の最新の研究成果について、国内外の研究者同士が議論。写真は25日に行われた昼食buffetの様子。



④営業活動の推進

次年度以降のさらなる利用促進のため、(公財)するが企画観光局やツインメッセ静岡などと協働して、各種コンベンションや学術大会などの誘致に努めた。また利用者の目線に立ち、利用登録の方法を簡略化し利用率の向上を図るなど、業務の改善を実施した。

海フェスタ静岡「記念式典」「記念祝賀会」  
7月18日(木)

「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識するための行事として清水港開港120周年記念事業と同時開催。秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと、港に関わる海の産業・技術から港町としての歴史や文化まで、海洋への意識向上を推進。



世界お茶まつり2019  
11月7日(木)~10日(日)

「魅力ある茶文化の継承と創造、お茶の新たな可能性の発掘と挑戦、世界に向けた日本茶の需要拡大」を目的とし開催。三笠宮彬子女王を迎え多彩なプログラムを実施。広く茶文化を振興し、約115,000人が来場。



TECH BEAT Shizuoka  
7月24日(水)・25日(木)

首都圏を中心としたスタートアップと県内企業との提携を促す商談会として開催。約3,300人の入場者があり、328件の商談が成立。



## 1 文化芸術の振興

### (1) グランシップ企画事業

グランシップ企画事業は、平成30年度から第4期指定管理者事業計画事業別の方針毎に、新たに戦略目標として「音楽文化等の普及・振興」、「伝統芸能の継承」、「文芸・美術等の振興」、「子ども・子育て世代への支援」と4本の柱を立て、子どものうちから「上質で多彩な」文化芸術の素晴らしさを体感できるような公演を展開した。また、開館20周年記念事業として、平成31年3月の「春の音楽祭」を皮切りに「トレインフェスタ」、「エイフマンバレエ」、「能楽入門公演」、「しずおか連詩の会」を開催した。さらに文化プログラムの推進にも努め、新たに若年層を意識した「春の音楽祭」等の県民参加型事業や教育普及、アウトリーチ等にも積極的に取り組んだ。

なお新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、県と協議の上、2月28日以降に計画していたグランシップ企画事業の年度内開催を中止・延期した。

#### 新たなグランシップファン獲得のための取り組み

##### ● 広報・宣伝の展開

グランシップ企画事業の関心層に照準を合わせた広報計画を立てるとともに、チケット販売状況に即応した広報・宣伝を展開した。また、多様化する購買層にあわせて、クラシック、ジャズ、伝統芸能のセット券は、組み合わせを見直して3種類販売した。

戦略目標	事業本数	入場参加者数
① 音楽文化等の普及・振興	26本	30,381人
② 伝統芸能の継承	19本	6,656人
③ 文芸・美術等の振興	11本	41,354人
④ 子ども・子育て世代への支援	(26本) 6本	(19,885人) 46,068人
合計	(26本) 62本	(19,885人) 124,459人

##### ● 新たな世代への取り組み

新たな鑑賞者層の獲得に向けて、今年度事業からスマートフォンからチケット購入が可能となるチケットシステムの運用を開始した。

##### ● 中高生等への鑑賞支援策

子どものうちから上質で多彩な文化芸術に身近に触れる機会を提供するため、各公演の学生チケット料金(28歳以下の学生、子ども)を原則1,000円で設定した。

また、中学校、高校の学校行事や部活動等の課外活動による鑑賞の場合には、チケット料金を800円に割引くとともに、中高生芸術鑑賞支援制度により交通費を支援した。

さらに、高校生の芸術鑑賞を促進するため、グランシップが幹事館として県内の公立ホールと連携した「静岡県高校生アートラリー事業」に取り組んだ。

参加館数	対象公演数	チケット料金
24館	104公演	学生料金として 1,000円から2,000円が大半

##### ● 県外への広報

「トレインフェスタ」、「音楽の広場」など、オリジナル性が高く静岡県らしい事業を首都圏等でPRし、本県の認知度の向上を図った。

文化団体	アーティスト	貸施設
288団体	84人	147施設

対象期間	表示ページ数	アクセス数
H31.4.1~R2.3.31	延べ1,636,551	246,476人

### (2) 文化支援

#### ふじのくに文化情報センター

文化支援の地域のセンターとして、県内各地で文化活動や文化支援に取り組む中核的な団体等との横断的なネットワークを強化した。また、「ふじのくに文化情報フォーラム・個別テーマ実践プログラム」に取り組み、交流と研修の場づくりの充実を図った。

##### ● 静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」の利用促進

文化芸術活動に取り組む人をはじめ、県民の誰もが利用しやすいサイトを目指し、県内の文化芸術催事情報の登録をやすくした。また情報誌「GRANSHIP」に情報を一元的に集約し、発信機能を強めた。

##### ● 総合相談窓口の運営

面接、電話、メールによる総合案内役として相談窓口を運営した。

##### ● 交流と研修の場づくり

交流と研修・情報収集の場として、「こかげのまなびば」や「ふじのくに文化情報フォーラム」の開催と、文化活動を支援するワークショップ「個別テーマ実践プログラム」の実施により、文化団体の交流の場づくりから活動の実践までの継続的な支援を進めた。

相談件数	主な相談内容
54件	助成、活動、事業の企画



実施日	毎月2回(隔週水曜日等)18時30分～ ※R2.3月は新型コロナウイルス感染拡大の防止のため中止
会場	グランシップ1階 ふじのくに文化情報センター
概要	・文化団体、中間支援組織やアーティスト等の講師と参加者が情報やアイデアを交換、交流する場 ・毎回のテーマは文化支援や地域の文化活動に関する事項 ・実施回数22回、参加者369人

種類	ふじのくに文化情報フォーラム2020 春
実施日	R2.2.11(火・祝)
会場	グランシップ 会議ホール・風
概要	・個別テーマ実践プログラム取り組みレポート 3つの参加プロジェクトの活動内容や今後の取り組みを報告。 ・ワークショップ 「あなたの『好き』で文化が変わる!?」をテーマに、10組のリーダーが用意したワークショップを体験。 その後、参加者が自分の『好き』の視点で、体験したワークショップについて意見交換、対話をした。 ・交流会 ・参加者 123人

※ R元、10、12に開催予定であった「ふじのくに文化情報フォーラム2019秋」については、台風19号の影響により中止

種類	ふじのくに文化情報フォーラム2019春(H31.2実施)から「3つのプロジェクト」を選び、グループワークを通じて、課題分析や地域実態調査などを踏まえて、今後の活動計画づくりをする実践的なワークショップ【3つのプロジェクト】 A「南伊豆町子浦の路地歩きで文化を紡ぐ」 リーダー：橋本敬之(NPO法人伊豆学研究会) B「夜景電車とまち歩きから発信する地域の魅力」 リーダー：鈴木秀実(フジノク地域応援ボランティア) C「誰もがダンスに参加し、人生を豊かに素敵に過ごすために必要なこと」 リーダー：野沢夕紀子(Dance Celebration)
講師	山浦晴男(情報工房代表)
実施日	5.26(日) 6.29(土) 8.3(土)、9.21(土) R2.3.8(日)
内容	「問題意識地図の作成」 「資源写真地図の作成」 「解決策地図と実行計画の作成」 「検証写真地図と次計画立案」
参加者	16人 18人 19人 10人

地域文化活動団体顕彰事業			
区分	団体名	所在地	
地域文化活動賞	富士の山ピエンナーレ実行委員会	富士市	
奨励賞	静岡脳科学研究会	藤枝市	
	浜松ブルース振興会	浜松市	
	マイロード本町レディース会	富士宮市	
努力賞	友銭会	袋井市	
	富士宮女声合唱団	富士宮市	
特別賞	静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校美術部	伊東市	

●文化活動団体の顕彰等

県内の文化活動を発展、振興していくため、新たな地域文化の創造を目指し多彩で優れた文化活動団体を顕彰した。

グランシップ企画事業を活用した人材育成

県内の公立文化施設職員の資質向上や交流を促進し、地域の文化活動団体、アウトリーチに関係する教育関係者、文化行政関係者とのネットワークを強化するため、「静岡県公立ホール連携支援研修事業」や大学生を対象としたインターンシップを実施した。

また、地域で活躍しているアーティストをグランシップアウトリーチ登録アーティストとして、県内の小学校や特別支援学校に派遣して、コンサートを実施した。

	静岡県公立ホール連携支援研修	登録アーティストアウトリーチ	インターンシップ
対象	県内公立文化施設職員	登録アーティスト	大学生
期間	6月～R2.3月	6月～R2.1月	6月～11月
参加人員	研修生:9人、聴講生:10人(延べ141人)	延べ19人(8回実施)	22人(延べ219人)

※インターンシップは、グランシップ業務全体を体験した3人を含めて、25人。

さらに、財団が文化支援事業やグランシップ企画事業で培ってきたノウハウを活かし、県から「子どもが文化と出会う機会創出事業(音楽)」を受託。県内プロオーケストラと協働して、県内各地で学校を対象とした地域訪問プログラムや未就学児コンサートを実施した。

子どもが文化と出会う機会創出事業(音楽)			
	開催回数	学校数	参加者数
地域訪問プログラム	40回	51校(合同参加校含む)	11,941人
未就学児コンサート	10回	—	3,660人
計	50回	51校	15,601人

(3) 文化プログラムに対する取り組み

グランシップオリジナル文化プログラム

県文化プログラムとして認証を受けた「音楽の広場」「トレインフェスタ」「世界のこども劇場」「誰もがWonderfulアート」を開催した。

また、昨年度に引き続き、クラシックとポップス、音楽とダンスというクロス・カルチャー型志向の若い世代が中心となる「春の音楽祭2020」を開催した。

関係機関と連携した文化プログラム

国、組織委員会、静岡県文化プログラム推進委員会との連携の下、全県的なオリンピックムーブメントの醸成に努めた。

また、東京2020参画プログラム及び静岡県文化プログラムに積極的に申請し、認証を受けるとともに、静岡県文化プログラム推進委員会と共催で県域プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」を実施した。

	東京2020参画プログラム	静岡県文化プログラム
認証件数	21件	64件

事業補助		
	補助団体名(所在地)	対象事業名
1	ポーランド市民交流友の会・浜松(浜松市)	浜松ワルシャワジュニアフェスティバル
2	浜松少年少女合唱団(浜松市)	浜松少年少女合唱団 第20回定期演奏会
3	アウローラ・フィルハーモニック管弦楽団(浜松市)	アウローラ・フィルハーモニック管弦楽団演奏会
4	伊東スパークス・スチールパンオーケストラ(伊東市)	パンジャンブル2019 20周年記念スチールパン・コンサート
5	富士宮オペラ合唱団(富士宮市)	オペラ「愛の妙薬」
6	さくらの架け橋会(静岡市)	第2回さくらの架け橋 絆コンサート
7	オペラ・ディ・ファミーユ(静岡市)	オペラ「ミカド」
8	LaN-T003(菊川市)	分断された心を 四身一体のダンスで一つに! 五輪に向かって
9	浜松ウィーン音楽愛好会(浜松市)	カール・ヤイトラー指揮ウィーン音楽コンサート及び合奏指導
10	しゃぎりフェスティバル実行委員会(三島市)	第3回しゃぎりフェスティバル
11	原泉アートプロジェクト(掛川市)	原泉アートデイズ!
12	西奈図書館友の会「けやき」(静岡市)	「けやき」図書館活動30年記念イベント 語り伝えよう 史話・伝説
13	NPO法人みらいネット浜松(浜松市)	次世代継承 三遠南信文化交流事業「早稲田人形浄瑠璃公演」
14	日本社心流浜松昭武館(沼津市)	浜松昭武館45周年記念大会 ～大和の心を紡いで輝く未来へ～
計	14団体	—

団体補助		
	補助団体名(所在地)	対象事業名
1	シズオカオーケストラ(静岡市)	持続可能な団体運営のための新体制づくりと情報発信
2	NPO法人伊豆学研究会(伊豆の国市)	文化財の調査担い手活動
3	浜松ジュニア・ユース邦楽奏楽団(浜松市)	日本の伝統音楽体験による人材育成活動
4	アルテ・ブラーサ(三島市)	新たな地域の文化創造～異分野と協働したアートプログラム開発と地域拠点検討～
5	富士の山ピエンナーレ実行委員会(富士市)	Fujinoyama ART HUB 運営計画
6	NPO法人音楽の架け橋メセナ静岡(静岡市)	多世代にまたがる文化事業とまちおこし事業に関わるボランティアスタッフ確保のための調査事業と実践
7	うきうきプロジェクト(静岡市)	オペラ公演のためのスキルアップ勉強会
8	街カル実行委員会(静岡市)	文化講師&ものづくり作家への「活動の場」提供支援と情報発信事業
9	演劇ユニット FOX WORKS(浜松市)	多目的コミュニティスペース「Sketchbook Theater」運営及びメンバーのスキル養成
計	9団体	—
事業・団体補助合計		23団体

文化力プロジェクト環境整備事業

●ふじのくに文化プログラム推進事業助成

東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を機に、県内の多彩な文化芸術活動や「ささえる」活動を発展・継承し県内外に発信するため、23団体に対して助成した。

また、団体補助の助成団体については、定期的な面談により、活動状況の確認と意見交換を実施した。

●本県の魅力掘り起こしと発信に係る事業

県内の文化資源の存在や価値を再発見し、県民の共有財産として、後世に伝えていく書籍「しずおかの文化」を2冊制作し、県内図書館(大学を含む)、高校、特別支援学校、県内市町等に配布した。

書籍名	規格	発行部数	執筆者
徳川将軍と富士山	四六判 口絵16頁 本文242頁	1,000部	徳川家広 夏目琢史 松島仁 ほか
清水港～これまで・今・これから～	四六判 口絵 8頁 本文256頁	1,000部	「しずおかの文化」編集部編

●次世代を担う中高生が文化芸術に触れる機会を創出する事業

文化プログラム推進の一環として、次世代を担う県内の中高生に上質で多彩な文化芸術に触れてもらうため、グランシップ企画事業の鑑賞に要する交通費を全額支援した。

公演数	学校数	生徒数	金額
8公演	37校	3,790人	3,834,709円

## 2 グランシップ管理運営事業

施設の適正な維持管理及び貸館事業等の円滑な運営を通じて、学術・文化・芸術の振興と、国内外との交流を推進した。

・入館者数…635,805人

※開館(平成11年3月)以来の入館者総数 14,888,893人(令和2年3月31日現在)

主要施設の稼働実績						
	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	ホール系計
稼働実績	223日	243日	246日	237日	258日	1,207日
利用可能日数	282日	305日	323日	320日	331日	1,561日
稼働率	79.1%	79.7%	76.2%	74.1%	77.9%	77.3%

※会議室、練習室等を含めた施設全体の稼働率は78.2%

新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル日数等						
	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	ホール系計
キャンセル日数	16日	22日	20日	23日	20日	101日
予約日数に対する減少率	6.6%	8.3%	7.5%	8.8%	7.2%	7.7%

※キャンセル期限以降にキャンセルに応じたもの  
※新型コロナウイルスの影響により全国規模等のコンベンションが3件催事中止となった。

### (1) 貸館

公共性と収益性のバランスを確保し、「親切・丁寧・迅速・柔軟」をモットーに利用者の満足度を高め、施設の利用促進を図った。

#### 利用者サービスの一層の向上

サービスの質の向上を目指し、全ての利用者に対してアンケート調査を実施するとともに利用者会議を開催し、利用者ニーズを的確に把握・分析し、迅速に対応した。

また、弁当手配やパーティー開催などの催事開催支援サービス(ワンストップサービス)では、利用者ニーズを把握してメニューの拡充に努めた。

#### ○業務改善の推進

- ・インターネット利用者登録手続きの簡略化

催事終了後のアンケート		
回答数	4,120件/5,699件 (回答率72.2%)	
結果	施設・備品が使いやすい	87.2%
	館内サインがわかりやすい	86.6%
	スタッフの対応が良い	88.5%

利用者会議の開催	
開催日	R2.3.4(水)
場所	グランシップ1202会議室
参加者	令和元年度中にグランシップ会議室・練習室を利用した主催者7団体8人
内容	過去の利用者会議開催報告、意見交換 等

- ・使用結果報告書のお客様のご意見に対する対応改善報告の徹底
- 中小会議室(100人未満)・練習室のインターネット予約
- ・貸館情報の提供及び予約受付についてWEBを活用
- ・インターネット予約率 54.5%
- 利用者会議の開催
- 催事終了後のアンケート

#### ○催事開催支援サービスの内訳

- ・弁当、ケータリング、パーティー
- ・テクニカルセッティング、看板、生花、会場設営
- ・レイアウト転換、ごみ処理
- ・コピー等事務サポート

#### 積極的な営業活動

貸館の優先予約制度を活用し、全国規模の学会・大会を柔軟に受け入れるとともに、文化団体や県内マスコミ事業部、県内コンサートプロモーターへの営業活動等により、様々な文化芸術・学術催事を積極的に誘致した。

また、県内の文化芸術団体や大学等と協働関係を強めるなど、積極的に営業活動に取り組んだ。

なお、全館休館を見据えて、運営改善・収入増を図るための現状分析に取り組んだ。

#### 大規模催事の誘致

県内外への営業訪問を計画的に行い、コンベンション等を誘致し、施設利用の一層の拡大を図った。また、(公財)するが企画観光局、ツインメッセ静岡、静岡市民文化会館等と連絡会を設け、誘致のための情報交換を行った。

特に、ツインメッセ静岡とは、催事情報を共有するなど、「オール静岡」体制の連携を図った。

### (2) 維持管理

#### 安全・安心・快適な施設管理

グランシップ指定管理者として、施設管理、警備、清掃、舞台技術の各業務を専門業者に委託し、適切に管理運営した。

また、キャノピー修繕工事等の県修繕工事が円滑に実施できるよう協力するとともに、施設の運営に支障が生じないよう、メインエントランスの雨漏り修繕、防災・防犯設備機器等の不良・不具合箇所を迅速に修繕した。

#### ユニバーサルデザインに配慮した施設運営

すべての来館者が、安心して利用できる施設とするため、毎月の防災訓練の中で、障害のある方への対応等、様々な来館者に対応するための研修を実施した。

#### 省エネルギーと環境負荷の低減

エネルギー監理員主導による効率的なエネルギーの運用を徹底するため、財団及び各常駐事業者等からなる「省エネルギー推進委員会」を毎月開催して、館全体で省エネルギーと環境負荷低減に取り組んだ。

エネルギー使用実績		
電気	5,642,060 kWh	
ガス	641,914 m <sup>3</sup>	
エネルギー総量	84,341 GJ	

めぐりアート+(作品展示)		
展示期間	作者	作品名
5月～10月	みしくいたる 御宿 至(彫刻家)	SOMETHING GREAT～記憶の風景～
10月～R2.4月	きとみこうじろう 佐藤浩司郎(画家)	ぼくをわたしを さがして

レコードコンサート		
開催日	回数	参加者数
毎月月末の金曜日	9回	465人

※11月は実施無し  
※R2.2～3月は新型コロナウイルス感染拡大の防止のため中止



御宿至(彫刻家)



佐藤浩司郎(画家)

#### 賑わい創出

静岡市、静岡県立美術館、静岡市美術館が東静岡駅北側を中心に静岡市内各所を会場に協働で取組んでいる「めぐりアート」と連携し、館内に作品を展示する「めぐりアート+(プラス)」と、映像ホールを活用したレコードコンサートにも引き続き取り組み、グランシップが文化振興の拠点として、親しみやすい環境づくりを進めた。

#### 駐車場管理、自動販売機等管理

来館者サービスの向上を図るため、適切な駐車場管理を行った。また、館内に自動販売機・公衆電話等を設置し、適切に管理した。(自動販売機14台・公衆電話3台)

収入実績	
駐車場収入	50,504千円
自動販売機等設置手数料	7,104千円

### (3) サポート組織運営

県内の文化振興に関心が  
あり、活動に積極的な県民の  
自主的な参加・参画を得て、  
グランシップの円滑な事業運  
営を実施した。



業務区分	内 容	活動者数
広 報	ダイレクトメール発送、広報勉強会、館内ポスター・チラシの掲出・配架、見学案内等	65人
イベント	受付、もぎり、資料配布、会場案内、避難誘導等	64人
撮 影	イベント・公演時の記録撮影、記録写真の整理等	16人
託 児	公演時の託児サービス等	9人
文化情報	静岡県文化情報総合サイト「しずおかの文化情報」における運営等	17人
計	(兼務11人含む)	171人

### (4) 危機管理とリスクマネジメント

「火災・地震・風水害等の災害が発生した際の対応」を危機管理、また「前記以外の事故・故障・苦情・不審物等のリスクへの対応」をリスクマネジメントと定義し、それぞれの体制を確立して、来館者の安心・安全と信頼の確保に努めた。

#### 危機管理

災害時における来館者の安全確保に万全を期すため、財団職員だけでなく、常駐委託業者スタッフも参加した防災訓練を毎月実施した。

また、発災時の迅速な初動態勢の確立のため、毎日の朝・夕礼時に自衛消防隊の編成を確認した。

令和元年10月12日の台風19号接近時には、財団・常駐各社協力のもと、事前に体制を整え来館者の安全確保を図った。数か所の雨漏り等が発生したが、台風通過後の翌営業日には通常通り開館することができた。

#### リスクマネジメント

故障による機器類の停止等の回避・低減のため、消耗品の事前交換など適切な維持管理を行った。また異常・故障発生時には、来館者への影響を最小とするため、適切な応急措置を直ちに講じ、修繕を行うとともに、財団で実施できない修繕については、県へ迅速に報告し、指示を受けた。

新型コロナウイルス感染症対策については、財団内に対策本部を設置するとともに、消毒薬設置・清掃頻度増加・注意喚起ポスター掲示・財団職員及び常駐職員の健康管理の徹底を行い、感染拡大防止及び館内衛生強化の対策を講じた。



## 3 友の会事業

区 分	年会費	特 典
個人会員	無料	・グランシップ企画事業のチケット優先予約(一般発売の1週間前) ・指定するグランシップ企画事業のチケット購入額の5%のポイント付与 ・積み立てポイントは100ポイント単位(1ポイント=1円)で次回購入時から割引、または500ポイント単位で1階レストラン・カフェで使える食事券に交換 ・公演情報の無料提供 ・グランシップ友の会提携店及び提携館での割引サービス他
法人会員	特別会員	・情報誌・グランシップホームページへの法人名掲載 ・グランシップ1階エントランスホールに法人名掲出 ・グランシップ企画事業への招待(年間:特別会員20席、一般会員6席) ・事務局が指定する事業の招待券を配布 (登録従業員数分、上限:特別会員1,000枚、一般会員500枚)
	一般会員	・法人会員の社員等はチケット10%割引のほか、ポイント付与以外の個人会員の特典を付与

入会状況 (令和2年3月31日現在)			
友の会個人会員数	11,322人		
	特別会員	一般会員	計
友の会法人会員数	4社	19社	23社

## 4 文化財団法人運営

### (1) 広報・宣伝

新聞広告、情報誌「GRANSHIP」やホームページ等の自己媒体、SNSやモニター制度等の双方向性のある手段を世代に合わせて組み合わせ、情報発信に取り組んだ。

#### 広報調整会議の開催

財団、グランシップ全体の広報・宣伝計画を策定し、毎月1回、広報調整会議を開催し、情報提供時期、媒体等の効果的・効率的な情報発信に取り組んだ。

#### 多様な媒体、手段の活用

既存の媒体とインターネット等の新たな媒体を効果的・効果的に組み合わせながら、様々な世代に合わせた広報・宣伝に引き続き取り組んだ。

特に、情報誌「GRANSHIP」では、新たに県内の文化プログラムの取り組みや「地球環境史ミュージアム」「富士山世界遺産センター」の紹介ページを設け、地域の文化芸術活動情報を幅広く提供した。

### (2) 働きやすい職場づくり

#### 人材育成

##### ● 契約職員の正規職員化

平成28年度から実施している正規職員への登用試験について、令和2年度登用にむけて実施し、1人が合格した。

##### ● 専門的人材の育成

職員が最新の専門知識、技術を習得できる機会を確保するため、全国公立文化施設協会主催の外部専門研修に職員を積極的に参加させた。参加職員には、休館日に開催する財団内職員研修で他の職員に研修内容をフィードバックさせて、知識の共有を図るとともに、財団事業計画や指定管理者事業計画を含めた財団の運営状況などもテーマに開催した。

##### ● 効果的な評価制度の運用

勤務実績が優秀な職員に対し、特別研修(職員自ら、取得したい資格、鑑賞したい文化芸術催事、参考にしたい施設等を自由に選び計画したものに対し、財団が費用負担する)を実施した。

#### 仕事と生活を両立できる職場づくり

##### ● 労働時間の適切な管理

労働法令及び労使協定を順守し、職員の出勤の把握、時間外勤務の事前申請の徹底等、労働時間の管理を適切に実施した。

各々の職員が勤務時間を自己管理し、効率的に業務を進めることができるよう、職員研修等を通じて制度の周知、意識啓発を実施した。

##### ● 健康管理とストレスチェックの導入

職員の定期健康診断や人間ドックの検診を実施するとともに、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを法定対象外だが自己管理に活かすひとつとして実施した。

##### ● 育児・介護休業制度の適切な運用

法令改正に依拠した育児・介護休業等に関する規程に基づき、育児短時間勤務制度等を運用した。また、育児や介護を理由に退職した職員が復職できる制度を創設し、令和2年度から1人を再雇用した。

利用制度	育児休業	短時間勤務	遅出早出勤
対象職員数	1人	2人	1人

### (3) 安定した財務管理

##### ● 収入確保の取組

チケットの販売促進や積極的な営業活動、関係機関と連携した大規模催事の誘致、催事開催支援サービスの利用者増による収入の確保のほか、(独)日本芸術文化振興会等の補助金を積極的に活用した。

##### ● 執行調整会議の開催

常に財団の財務状況を把握し、適時適切な対応ができる体制を維持するため、毎月1回執行調整会議を開催し、各月の予算執行状況や光熱水費の推移を確認するとともに、月次決算及び上半期終了時の中間決算を実施した。

##### ● その他

令和元年10月からの消費税等の税率変更に伴い、県と協議の上、グランシップ利用料金を改定した。



令和元年度 主催事業(企画事業)

	ジャンル	日程	催事名	出演者・団体等	会場	演目・曲目・内容等	財団以外の主催・共催(☆は主催:静岡県)
文芸・美術の振興	アウトリーチ	9月4日(水)	【出前公演】人形浄瑠璃文楽事前レクチャー 山川静夫のここがみどころ・ききどころ	講師:山川静夫	焼津市	「人形浄瑠璃 文楽」公演(同年10月)に連動した事前講座。文楽の基本や10月公演の演目の見どころを映像資料等を用いて紹介 会場:大井川文化会館ミュージコ	☆ (公財)焼津市振興公社
	教育普及	9月7日(土)	20周年記念事業 【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能 能楽入門公演	出演:観世三郎太、山階彌右衛門、観世芳伸 他	中ホール・大地	周年と改元にあわせて特別な演目を取り入れた入門公演 演目:能「一人翁」、仕舞「羽衣」、高砂	☆ 静岡県能楽協会、静岡新聞社・静岡放送
	県民参加	9月22日(日)	【静岡県文化プログラム】ふじのくに伝統芸能フェスティバル	出演:笹間神楽保存会、遠州横須賀三社祭礼囃子保存会、獅子舞かからまち保存会、静岡県立駿河総合高等学校和太鼓部、富士宮囃子保存会、長谷川晴彦(観世流能楽師) コメンテーター:岩下尚史 司会:久保ひとみ	中ホール・大地	県内各地に残る民俗芸能の次世代への継承事例を紹介するとともに、実演を披露。 8月23日には伝統芸能こどもサミットも開催。こどもサミットには、県内外から12団体が参加	静岡県文化プログラム推進委員会
	アウトリーチ	9月30日(月)	グランシップ伝統芸能普及プログラム 狂言ワークショップ(1校)	講師:三宅右矩、高澤祐介、金田弘明	浜松市	小学生向けの狂言教室 会場:浜松市立北浜南小学校	☆
	上質多彩	10月6日(日)	【グランシップ伝統芸能シリーズ】人形浄瑠璃 文楽(2公演)	出演:人形浄瑠璃文楽座 (竹本津駒太夫、竹澤團七、桐竹勘十郎 他)	中ホール・大地	ユネスコ無形文化遺産「人形浄瑠璃 文楽」の公演 演目:昼の部:「生写朝顔話」～明石船別れの段～笑い葉の段～宿屋の段～大井川の段 夜の部:「ひらかな盛衰記」～松右衛門内の段～逆櫓の段、「日高川入相花王」～渡し場の段	☆ (公財)文楽協会
	アウトリーチ	11月7日(木)、11月28日(木)	【グランシップ子どもアート体験!】玉川奈々福の浪曲教室(2校)	講師:玉川奈々福(浪曲師)、沢村美舟(曲師)	静岡市、焼津市	浪曲師・玉川奈々福による小学生向けの浪曲教室 会場:静岡市立葵小学校、焼津市立焼津南小学校	☆
	上質多彩	11月23日(土・祝)	グランシップ寄席 ～寄席わんだーらんど～(2公演)	出演:林家正蔵、三増紋之助、林家はな平	交流ホール	落語、曲独楽の寄席芸を未就学児をはじめ親子で楽しめる公演と寄席体験ワークショップ 演目:落語「みそ豆」(林家正蔵)、曲独楽(三増紋之助)、落語「つる」(林家はな平) 寄席体験ワークショップ/高座体験、曲独楽体験	☆
	教育普及	11月28日(木)	グランシップ伝統芸能普及プログラム ＜大学連携事業＞浪曲教室	講師:玉川奈々福(浪曲師)、沢村美舟(曲師)	映像ホール	浪曲師・玉川奈々福による浪曲教室	☆
	上質多彩	1月25日(土)	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能	出演:宝生和英、金剛龍護 他	中ホール・大地	宝生流と金剛流の異流共演による本格的な能楽公演 演目:能「龍虎」、「巻絹 五段神楽」、狂言「萩大名」	☆ 静岡県能楽協会、静岡新聞社・静岡放送
アウトリーチ	2月7日(金)	グランシップ伝統芸能普及プログラム ＜地域連携事業＞触れてみよう能楽師	講師:清水義也、武田祥照 他	御殿場市	観世流能楽師による能楽教室 演目:「敦盛」 会場:御殿場市立御殿場南小学校	☆	
伝統芸能の継承	アウトリーチ	①4月2日(火)～8日(月)、 ②4月22日(月)～26日(金)、 ③6月18日(火)～26日(水)、 ④6月26日(金)～7月19日(金)	グランシップ静岡の魅力フォトコンテスト(巡回展)	—	①焼津市、②富士宮市、 ③浜松市、④静岡市	フォトコンテストの周知を目的とした、過去の実績作品の巡回展示 会場:①イオン焼津、②イオンモール富士宮、③イオンモール浜松志都呂、④d-labo静岡	☆
	県民参加	9月14日(土)～29日(日)	グランシップ 誰もがWonderfulアート	—	展示ギャラリー	誰もが持つ豊かな感性と表現の素晴らしさを感じる展覧会ー県内の特別支援学校児童・生徒の作品展ーウィズハート展、 安間佐恵貼り絵展とNHKハート展	☆ NHK静岡放送局、NHK厚生文化事業団、 NHKサービスセンター、全国社会福祉協議会
	アウトリーチ	10月28日(月)、11月26日(火)	【グランシップ子どもアート体験!】連詩をつくらう!ワークショップ(2校)	講師:野村喜和夫	富士宮市、伊豆市	連詩の会参加詩人による連詩の創作ワークショップ 会場:富士宮市立北山小学校、伊豆市立修善寺小学校	☆
	アウトリーチ	11月3日(日)	詩人と語らう!言葉を語らう!	講師:野村喜和夫	グランシップ会議室	しずおか連詩の会に連動し、県内高校文芸部の高校生が詩人と交流しながら創作するワークショップ	☆
	上質多彩	12月7日(土)	【グランシップサポーター企画】グランシップ懐かしの映画会 洋画劇場	—	映像ホール	グランシップサポーターの企画による洋画DVDの上映会 上映作品:裏窓、雨に唄えば	☆
	上質多彩	12月8日(日)～2月1日(土)	【グランシップサポーター企画】撮影サポーター写真展	—	3階共通ロビー	グランシップ撮影サポーターが撮影した平成30年10月から令和元年10月までの企画事業の写真展	☆
	上質多彩	12月15日(日)	20周年記念事業 グランシップ2019年しずおか連詩の会	参加詩人:野村喜和夫(詩人)、中本道代(詩人)、 覚和歌子(作詞家・詩人・音楽家)、穂村弘(歌人)、岡本啓(詩人)	会議ホール	本県出身の詩人・大岡信が提唱した連詩の創作と発表 タイトル:「しが息をしはじめる」の巻	☆ 静岡新聞社・静岡放送
	上質多彩	1月18日(土)・19日(日)	【グランシップサポーター企画】グランシップ懐かしの映画会	—	中ホール・大地	グランシップサポーターによる国立近代美術館フィルムセンターと連動した名作邦画の上映会 上映作品:夜の河、五瓣の椿、五番町夕霧楼、雪国	☆ グランシップ優秀映画鑑賞推進事業実行委員会、 文化庁、国立映画アーカイブ
	県民参加	1月18日(土)～2月2日(日)	グランシップ 静岡の魅力 第10回フォトコンテスト2019(表彰・入賞作品展)	—	展示ギャラリー	静岡県の写真文化の発展と振興、さらに静岡の魅力を全国に発信するための写真コンテストの入賞作品展	☆ 静岡新聞社・静岡放送
	県民参加	2月16日(日)	第60回静岡県芸術祭 ふじのくに芸術祭春の祭典「2019授賞式」「2020総会開会式」	—	中ホール・大地	ふじのくに芸術祭のメインイベントである春の祭典授賞式と開会式(県と共催)	☆
県民参加	2月19日(水)～2月27日(木)	グランシップ 高松宮妃のおひなさま展	—	展示ギャラリー	県所蔵の高松宮妃ゆかりのおひなさまの展示 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、2月28日から3月8日中止	☆	
子育て世代の支援	県民参加	4月14日(日)	「おかあさんといっしょ」ガラピコぷ～がやってきた!!(2公演)	出演:チョロミー、ムームー、ガラピコ、ひなたおさむ、西けいこ、きよこ	大ホール・海	NHK「おかあさんといっしょ」のキャラクター達による親子向けのコンサートショー 曲目:ミライクルクル、わをつくらう、つきよのボンチャラリン、ブンバ・ポーン!、べるがなる 他	☆
	県民参加	5月3日(金・祝)～6日(月・休)	グランシップこどものくに～ハロー!みらいくん～	—	展示ギャラリー 他	つくる・さわる・あそぶと親子で楽しめる体験型イベント テーマ:みらい	☆
	教育普及	5月3日(金・祝)	合唱ワークショップ ～歌のメリーゴーランド～(2公演)	合唱:静岡児童合唱団(主宰:戸崎裕子) 指揮:戸崎文葉 演奏:スーパーパロックアンサンブル(戸崎廣乃(Cemb)、鈴木広志(Sax)、立岩潤三(Per))	中ホール・大地	体を動かしながらこどもから大人まで楽しめるワークショップ 曲目:茶摘み、ミッキーマウスマーチ、さんぽ 他	☆
	県民参加	5月11日(土)・12日(日)	20周年記念事業 グランシップトレインフェスタ2019	—	全館	鉄道模型コーナーやミニ列車乗車会、鉄道トーク、鉄道コンサート等の盛りだくさんの企画で、家族で楽しめる日本最大級の鉄道イベント	☆ 静岡HOクラブ
	上質多彩	8月1日(木)～3日(土)	グランシップ 世界のこども劇場2019	出演:テアトロ・デ・オカシオン(チリ)、ダンゼマ・ダンス・シアター(リトアニア)、 フォウル・テアトル(ベルギー)、ラ・パルッカ(イタリア)、三宅右矩、三宅近成(日本)	中ホール・大地、 交流ホール 他	0歳からおとなまで楽しめる、国内外の劇団による演劇・パフォーミングアーツ公演 演目(国):「はる・なつ・あき・ふゆ」(チリ)、「カラフル・パズル」(リトアニア)、「キャンパス」(ベルギー)、「あへこべ」(イタリア)、 「にっぽんこども劇場～狂言「権しぼり」～」(日本/8月2日のみ)	☆
	アウトリーチ	8月7日(水)	【出前公演】グランシップ 世界のこども劇場2019(掛川)	出演:テアトロ・デ・オカシオン(チリ)	掛川市	「グランシップ 世界のこども劇場」の出前公演 演目(国):アナのはじめての冒険(チリ) 会場:掛川市美惑ホール	☆ (公財)掛川市生涯学習振興公社
	アウトリーチ	8月8日(木)	【出前公演】グランシップ 世界のこども劇場2019(菊川)	出演:フォウル・テアトル(ベルギー)	菊川市	「グランシップ 世界のこども劇場」の出前公演 演目(国):キャンパス(ベルギー) 会場:菊川文化会館アエル	☆ 菊川文化会館アエル
	アウトリーチ	8月10日(土)	【出前公演】グランシップ 世界のこども劇場2019(裾野)	出演:テアトロ・デ・オカシオン(チリ)	裾野市	「グランシップ 世界のこども劇場」の出前公演 演目(国):アナのはじめての冒険(チリ) 会場:裾野市民文化センター	☆ 裾野市民文化センター
	教育普及	11月4日(月・休)	グランシップ 文化講座 先端医療～遺伝子操作と生命倫理～	講師:今井康之、石井哲也	910会議室	社会課題や最新の科学技術をテーマに日本の第一人者と一緒に考える講座	☆
県民参加	11月23日(土・祝)	グランシップ 冬のおくりもの2019 オープンシアターデー	ツリー制作:佐藤浩司郎 楽器体験・指揮者体験:静岡フィルハーモニー管弦楽団 ワークショップ協力:しるくまLaBO、佐藤絵里子(東海大学短期大学部)、八木朋美(静岡福祉大学子ども学科)、佐藤浩司郎	中ホール・大地 他	クリスマスの季節感を創出するツリー点灯式や家族で楽しめるワークショップ等のグランシップに親しんでらうイベント	☆	

新型コロナウイルス感染症の影響により  
中止又は延期した企画事業

音楽文化等の普及・振興

- 【教育普及】グランシップアウトリーチ登録アーティスト事業～ロビーコンサート【3月21日(土)中止】
- 【上質多彩】グランシップ プレミアム・ジャズ×ロック・ライブ 小曾根真 featuring No Name Horses Until We Vanish 15×15 15th Anniversary 2020 【3月6日(金)中止】
- 【県民参加】【提携公演】2020年静岡県文化プログラム「静岡県郷土唱歌を歌おう」【3月29日(日)延期】

伝統芸能の継承

- 【教育普及】雛の宴 ～五人囃子のひなまつり～【3月8日(日)中止】
- 【上質多彩】グランシップ寄席～三遊亭歌之介改め三遊亭團歌・柳家三三 二人会～【3月14日(土)中止】

子ども、子育て世代の支援

- 【教育普及】高松宮妃のおひなさま展開連事業 ～キッズデーイベント【2月29日(土)、3月1日(日)中止】
- 【教育普及】グランシップ文化講座 AI～人工知能と脳、デジタルゲーム、複雑系からみる未来～【3月22日(土)延期】

## 令和元年度 主な貸館事業

開催日	催事名	主催者名	主な使用施設
<b>音楽・演劇・ダンス等</b>			
4月12日(金)	TSUKEMEN LIVE2019"X" in 静岡	株式会社静岡リビング新聞社	中ホール・大地
4月27日(土)	ヤマサク春のセンまつり2019	高山堂	中ホール・大地
4月29日(月)	SUGA SHIKAO TOUR 2019～労働なんかしないで 光合成だけで生きたい～	株式会社サンデーフォークプロモーション	中ホール・大地
5月19日(日)	JMK静岡県歌謡選手権大会	JMK日本音楽歌謡講師会	中ホール・大地
5月24日(金)	KOTOコンサート2019	琴アンサンブル 千鳥	中ホール・大地
5月25日(土)	静岡市立高等学校マンドリン部 第19回定期演奏会	静岡市立高等学校マンドリン部	中ホール・大地
6月8日(土)	TPSスタジオミュージカル公演 11びきのねこ	TPSスタジオ	交流ホール
6月9日(日)	小山貢社中富士山静岡公演	株式会社だるま	大ホール・海
6月16日(日)	一般財団法人日本郷土民謡協会 第18回静岡県中央地区連合会県大会	一般財団法人日本郷土民謡協会 静岡県中央地区連合会	中ホール・大地
7月20日(土)	第18回みんなの音楽会 交流コンサート	特定非営利活動法人ミュージック・コミュニティーネットワーク	中ホール・大地
9月1日(日)	第74回関東合唱コンクール静岡県大会	静岡県合唱連盟	中ホール・大地
9月13日(金)～15日(日)	令和元年度静岡県高等学校総合文化祭	静岡県高等学校文化連盟	中ホール・大地 他
9月22日(日)	シンフォニエッタ静岡 第58回定期公演	一般社団法人シンフォニエッタ静岡	中ホール・大地
9月23日(月)	スーパー・プラス・オーケストラ 16thライブ	スーパー・プラス・オーケストラ	交流ホール
10月13日(月)	JMK静岡県歌謡選手権大会	JMK日本音楽歌謡講師会	中ホール・大地
10月14日(日)	ザ・スイング・ハード・オーケストラ 第54回リサイタル	ザ・スイング・ハード・オーケストラ	中ホール・大地
10月19日(土)	日本製紙NewWaveConcert2019	株式会社静岡新聞社・地域ビジネス推進局	中ホール・大地
10月27日(日)	第59回静岡県芸術祭ふじのくに芸術祭2019 邦楽演奏会	静岡県三曲連盟	中ホール・大地
12月1日(日)	第59回静岡県芸術祭 合唱コンクール	静岡県合唱連盟	中ホール・大地
12月23日(月)	静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部主催 第4回軽音楽新人大会	静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部	中ホール・大地
12月24日(火)	吹奏楽ウィンターコンサート2019	静岡県立静岡東高等学校 吹奏楽部	中ホール・大地
12月25日(水)	TFC55 Limited Edition	株式会社静岡リビング新聞社	中ホール・大地
12月27日(金)	常葉大学ウインド・サウンズ・アンサンブル 第38回定期演奏会	常葉大学ウインド・サウンズ・アンサンブル	中ホール・大地
1月12日(日)～13日(月)	第7回静岡県民ミュージカル『エルドラド』	静岡県民ミュージカル実行委員会	中ホール・大地
1月25日(土)	第39回静岡音楽祭	静岡県防衛協会	大ホール・海
2月13日(木)～14日(金)	小林賢太郎演劇作品『うるう』	株式会社TBSラジオ	中ホール・大地
2月15日(土)	音楽劇 12星座の物語～オーケストラの響きにのせて～	株式会社アートプランナース	交流ホール
<b>展示</b>			
4月10日(水)～14日(日)	第69回静岡県勤労者総合美術展	一般社団法人静岡県勤労者福祉協議会	展示ギャラリー
6月12日(水)～16日(日)	第29回静岡県女流美術協会展	静岡県女流美術協会	展示ギャラリー
6月26日(水)～27日(木)	第21回静岡県洋菓子作品展	静岡県洋菓子協会	展示ギャラリー
12月12日(木)～16日(月)	第28回愛護ギャラリー展	静岡県知的障害者福祉協会	展示ギャラリー
1月15日(水)	令和元年度第32回静岡県中部高等学校定時制通信制生徒合同文化祭	静岡県高等学校定通教育振興会及び高文連定通専門部	展示ギャラリー 他
2月10日(月)～12日(水)	静岡大学 教育学部&地域創造学環 卒業・修了制作展2020	静岡大学 美術教育専修・アート&マネジメントコース	展示ギャラリー
<b>学会</b>			
7月2日(火)～3日(水)	ACRM2019	産業技術総合研究所 計量標準総合センター	10階会議室 他

開催日	催事名	主催者名	主な使用施設
7月28日(日)	第61回自治体学校in静岡	自治体問題研究所	会議ホール・風 他
8月19日(月)	第10回幼児教育実践学会	公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	中ホール・大地 他
9月2日(月)～4日(水)	2019年度 国際法学会研究大会	一般社団法人国際法学会	会議ホール・風 他
9月3日(火)～6日(金)	16th IAEA Technical Meeting on Energetic Particles in Magnetic Confinement Systems	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 核融合科学研究所	交流ホール 他
9月4日(水)	日本土壌肥料学会2019静岡大会	静岡大学 農学部	中ホール・大地
9月23日(月)～9月27日(金)	2nd World Conference on Solid Electrolytes for Advanced Applications	名古屋大学	会議ホール・風 他
11月15日(金)～17日(日)	第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	東海大学医学部リハビリテーション科学	大ホール・海 他
1月18日(土)	第8回 静岡看護学会	公益社団法人静岡県看護協会	10階会議室
1月19日(日)	第178回 東海精神神経学会	静岡県立こころの医療センター	9階会議室
2月7日(金)～2月8日(土)	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	大ホール・海 他
2月15日(土)	第59回静岡県病院学会	公益社団法人静岡県病院協会	会議ホール・風
2月22日(土)～2月23日(日)	日本健康相談活動学会第16回学術集会	静岡大学 教育学部	会議ホール・風 他
<b>大会・式典・講演等</b>			
4月20日(土)～21日(日)	第9回全日本極真空手道型選手権大会 第10回東日本極真空手道選手権大会 第50回全日本空手道選手権大会	一般社団法人国際空手道連盟極真会館 世界総極真 大石道場	大ホール・海
5月26日(日)	第59回静岡県青少年赤十字大会	日本赤十字社 静岡県支部	中ホール・大地
5月26日(日)	第66回NHK杯全国高校放送コンテスト中部支部予選	静岡県高等学校文化連盟放送専門部中部支部	9階会議室 他
6月30日(日)	第11回静岡市民「からだ」の学校	地方独立行政法人静岡市立静岡病院	会議ホール・風
7月12日(金)	令和元年度 しずおか健康づくりサポーター&県民 連携・協働のつどい	公益財団法人しずおか健康長寿財団	会議ホール・風
7月18日(木)	海フェスタしずおか「記念式典」「記念祝賀会」	海フェスタしずおか実行委員会	大ホール・海 他
8月15日(木)	静岡市戦没者を追悼し平和を祈念する式典	静霊奉賛会静岡市支部	中ホール・大地
8月17日(土)	ふじのくに子ども芸術大学	ふじのくに子ども芸術大学実行委員会	会議ホール 他
8月31日(土)	ハンセン病に関する親と子のシンポジウム 静岡会場	公益財団法人人権教育啓発推進センター	会議ホール・風
9月28日(土)	茶の湯文化にふれる市民講座	表千家同門会静岡県支部	中ホール・大地
10月21日(月)	第71回全国理容競技大会	静岡県理容生活衛生同業組合	グランシップ全館
10月26日(土)	第12回静岡市民「からだ」の学校	地方独立行政法人静岡市立静岡病院	会議ホール・風
11月2日(土)	静岡市歯と口腔の健康づくりの推進に関する条例制定記念講演会	静岡市健康づくり推進課	会議ホール・風
11月7日(木)～10日(日)	世界お茶まつり2019	第7回世界お茶まつり実行委員会	グランシップ全館
11月25日(月)	シンポジウム 人生100年時代とともに考える自分らしい最期の迎え方	静岡県健康福祉部医療政策課	会議ホール・風
11月28日(木)～29日(金)	第16回お米日本一コンテストinしずおか	お米日本一コンテストinしずおか実行委員会	交流ホール 他
11月30日(土)	ロボットアイデア甲子園	FA・ロボットシステムインテグレート協会	交流ホール
12月5日(木)	第22回全国農業担い手サミットinしずおか	第22回全国農業担い手サミットinしずおか実行委員会	グランシップ全館
12月16日(月)	シンポジウム「米中対立と地政学リスク」	静岡県立大学グローバル地域センター	会議ホール・風
1月3日(金)	2020静岡市成人式	静岡市子ども未来局青少年育成課	大ホール・海
1月10日(金)	令和2年静岡県警察年頭視閲式	静岡県警察本部	大ホール・海
1月16日(木)	ふじのくに総合食品開発展2020	静岡県経済産業部マーケティング課	大ホール・海
2月3日(月)	令和元年度ふじのくに農地有効活用シンポジウム	静岡県農業再生協議会	中ホール・大地
2月18日(火)	コミュニティ・フォーラム2020	静岡県コミュニティづくり推進協議会	会議ホール・風

# 令和元年度 決算状況

(単位:円)

科 目	公益目的事業	収益事業等			法人会計	内部取引消去	合 計
	文化・芸術	収益事業	友の会	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	4,641,282	0	0	0	3,094,188		7,735,470
特定資産運用益	0	0	0	0	90,739		90,739
事業収益	753,887,937	581,520,064	6,698,053	588,218,117	7,330,852	△7,045,948	1,342,390,958
受取補助金等	28,389,970	273,030	0	273,030	0		28,663,000
受取負担金	5,128,781	0	0	0	0		5,128,781
受取寄付金	0	0	0	0	0		0
特別賛助会員会費	100,000	0	0	0	0		100,000
雑収益	22,064	1,184,658	0	1,184,658	22,561		1,229,283
経常収益計	792,170,034	582,977,752	6,698,053	589,675,805	10,538,340	△7,045,948	1,385,338,231
(2) 経常費用							
事業費	905,802,942	470,821,253	8,414,715	479,235,968	0	△7,045,948	1,377,992,962
管理費	0	0	0	0	19,757,775		19,757,775
経常費用計	905,802,942	470,821,253	8,414,715	479,235,968	19,757,775	△7,045,948	1,397,750,737
(3) 評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△113,632,908	112,156,499	△1,716,662	110,439,837	△9,219,435	0	△12,412,506
2 経常外増減の部							
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
3 他会計振替額	52,720,084	△61,939,519	0	△61,939,519	9,219,435		0
4 法人税、住民税等	0	17,506,700	0	17,506,700	0		17,506,700
当期一般正味財産増減額	△60,912,824	32,710,250	△1,716,662	30,993,618	0	0	△29,919,206
一般正味財産期首残高	148,582,013	163,056,215	13,993,071	177,049,286	338,780	0	325,970,079
一般正味財産期末残高	87,669,189	195,766,495	12,276,409	208,042,904	338,780	0	296,050,873
II 指定正味財産増減の部							
(1) 基本財産評価益	0	0	0	0	0		0
(2) 基本財産評価損	4,690,504	0	0	0	3,127,003		7,817,507
当期指定正味財産増減額	△4,690,504	0	0	0	△3,127,003		△7,817,507
指定正味財産期首残高	634,588,756	0	0	0	423,059,170		1,057,647,926
指定正味財産期末残高	629,898,252	0	0	0	419,932,167		1,049,830,419
III 正味財産期末残高	717,567,441	195,766,495	12,276,409	208,042,904	420,270,947		1,345,881,292

## 施設概要

正式名称	静岡県コンベンションアーツセンター
所在地	静岡県静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
開館時間	午前9時～午後10時
休館日	不定期、12月29日～1月3日
敷地面積	36,009.5㎡
建築面積	13,647.3㎡
延床面積	60,630.0㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
階数	地上12階、地下2階
建物全長	約200m
最大幅	約80m
最高高さ	約60m
開館	平成11年3月13日
駐車場	約400台

## 利用状況

年度	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	全体平均
平成29年	78.7	81.2	78.5	74.9	84.0	82.6
平成30年	81.3	87.1	84.5	82.4	83.6	84.6
令和元年	79.1	79.7	76.2	74.1	77.9	78.2

※R2年2月～3月は、新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

年度	来館者数	累計
平成29年	624,442	13,662,761
平成30年	590,327	14,253,088
令和元年	635,805	14,888,893

# 静岡県文化財団・グランシップの沿革

- 昭和59年5月 ● 財団法人静岡県文化財団設立(基本財産出捐総額:県9億円、市町村1億円、県民等171万円)  
「文化鑑賞の提供事業」: 地域音楽公演  
「地域文化の振興事業」: 文化団体への助成  
「文化意識の啓発事業」: 地域文化活動の顕彰  
「文化情報の提供事業」: 静岡の文化の発行
- 昭和60年1月 ● 季刊「静岡の文化」創刊号発行
- 平成6年 ● (財)静岡県文化財団10周年記念出版「今川時代とその文化」発行
- 平成6年3月 ● 東静岡都市拠点総合整備委員会より施設の導入機能について知事に提言
- 平成7年12月 ● 静岡県が県民国際プラザ(仮称)建築工事着手
- 平成8年 ● 静岡県は県民国際プラザ(仮称)の名称を「静岡県コンベンションアーツセンター」、愛称を全国公募により「グランシップ」に決定
- 平成10年8月 ● グランシップ建物竣工
- 平成10年11月 ● (財)静岡県文化財団がグランシップ管理運営業務受託、テストラン実施(～11年2月)
- 平成11年3月13日 ● グランシップ開館
- 平成11年3月～ ● グランシップ開館記念事業開催(アニメーションワークス、バルーンアートフェスティバル 他)
- 平成11年12月 ● グランシップ来館者100万人達成
- 平成12年2月～ ● グランシップ開館1周年記念事業開催(ガーデニングフェスティバル、モーツァルト!モーツァルト!モーツァルト! 他)
- 平成14年1月～ ● グランシップ開館3周年記念事業開催(わんぱく2002ほか)
- 平成16年3月～ ● グランシップ開館5周年記念事業開催(糸操り人形「夢の浮橋～人形たちの「源氏物語」」、新作能「利休」 他)
- 平成17年2月 ● グランシップ来館者500万人達成
- 平成18年4月 ● (財)静岡県文化財団がグランシップ指定管理者として管理運営業務受託(3年間)
- 平成20年2月～ ● グランシップ開館10周年記念事業(オペラ「椿姫」、北大路魯山人展 他)
- 平成21年4月 ● (財)静岡県文化財団がグランシップ第2期指定管理者として管理運営業務受託(3年間)
- 平成23年2月 ● 季刊「しずおかの文化」100号で廃刊、新たに「しずおかの文化新書」(県内の文化にまつわる事柄をテーマとして取り上げ、記録し、保存する新書)発行
- 平成23年4月 ● 文化団体への助成を見直し、「ふじのくに文化芸術振興助成」制度開始  
地域音楽公演に代わり、「中高生芸術鑑賞支援(県内の中高生がグランシップで芸術鑑賞する場合に交通費を支援)事業開始
- 平成24年2月 ● グランシップ来館者1,000万人達成
- 平成24年4月 ● (財)静岡県文化財団がグランシップ第3期指定管理者として管理運営業務受託(5年間)
- 平成24年12月 ● グランシップと中国浙江省杭州劇院が友好交流協定締結
- 平成25年4月 ● 公益財団法人静岡県文化財団としてスタート
- 平成26年5月 ● 石塚正孝が第3代グランシップ館長に就任
- 平成26年8～11月 ● グランシップ安全対策改修工事(26年5～11月)に伴い完全休館、12月1日再オープン
- 平成27年3月末 ● 新情報誌「GRANSHIP」発刊
- 平成27年4月 ● グランシップ友の会個人会員新制度が発足
- 平成27年5月 ● 貸館受付を1階インフォメーションへ移動、「催事開催支援サービス」開始
- 平成27年7月 ● 鈴木壽美子理事が第4代理事長に就任
- 平成29年4月 ● (公財)静岡県文化財団がグランシップ第4期指定管理者として管理運営業務受託(5年間)
- 平成31年3月～ ● グランシップ開館20周年記念事業開催(春の音楽祭 他)

